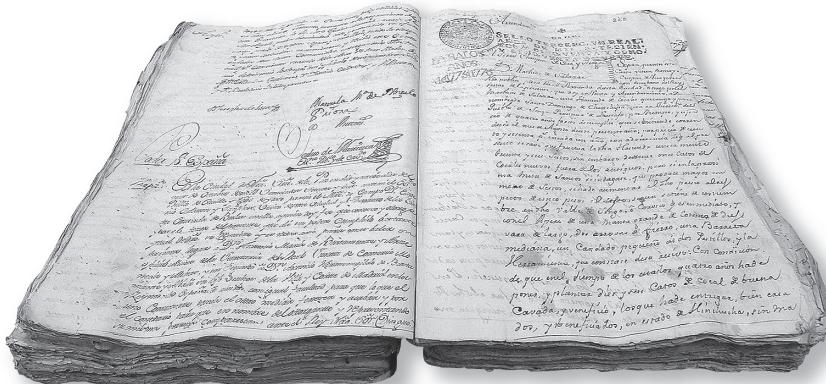


スペイン帝国を支えた文書ネットワーク

文・写真
吉江貴文

共同研究 ● 近代ヒスパニック世界における文書ネットワーク・システムの成立と展開（2013-2016）



左：公証人帳簿（アヤクーチョ地方文書館所蔵、2011年撮影）。



右：1803年にラパス市の公証人ファン・クリソストモ・バルガスが作成した公証人帳簿（ラパス市立文書館所蔵、2010年撮影）。

はじめに

本共同研究は、15世紀末以降、スペインが世界規模で拡張した帝国統治のメカニズムについて、軍事・行政・司法・財政・宗教の諸分野を交差して領域横断的に張りめぐらされた文書ネットワーク・システムの展開に焦点を当てながら解明することを目的として2013年10月より開始されている。その第一報となる本稿では、今後3年間にわたり取り組む本研究の主なねらいや期待される成果などについて簡潔に紹介する。

スペイン帝国を支えた文書ネットワークと植民地社会

16世紀後半、アジアからアメリカに至る広大な領域を支配下に治めたスペイン帝国の統治原理は、かつてアンヘル・ラマが「文字化された都市 Lettered City」という表現を用いて象徴的に示したように、文書主義の優越というイデオロギーに支えられたものであった（Rama 1996）。文書主義とは、一般に口頭よりも文書を重視し、「文書への信頼」に基づいて人間関係の在り方や社会の仕組みを支えようとするメンタリティーを指している（Clanchy 1993；三瀬 2009）。15世紀末に海外征服に乗り出したスペイン帝国の統治機構においては、マドリード王宮の発する命令書簡から植民地最末端で作成された先住民請願書に至るまで、さまざまな出自を持つ文書が無数に行き交い、2つの大洋を跨いで横断することで、大陸間を接続する壮大な文書ネットワークが展開されていた。こうした広域的な文書ネットワークの網の目に沿って、植民地経営の実務を支えるヒトやモノ、情報の流れが構造化され、領域の隅々にまで拡張されることで、近代ヨーロッパ史上、類を見ない規模の世界帝国を支えた統治機構の礎が整備されていったと考えられる。

いっぽう、こうした文書ネットワークが、海外に跨がる広大な帝国領土において、実態としてどの程度機能していたのか、その詳細についてはこれまで十分なアプローチがなされ

てこなかった。例えば、ひとくちに文書主義といっても、帝国の統治機構に対する影響の及び方は複雑であり、文書への過度な依存がかえって官僚制度の機能不全を助長したり、政府機能の非効率化を促す要因となるなど、より多方向的な展開を示していた可能性も考えられる。また帝国域内における文書ネットワークの運用過程も、権力中枢を構成するスペイン人支配層の働きによってのみ支えられていたわけではない。植民地化以降、文書作成能力を身につけ、行政司法機構を通して文書世界への参入を試みた先住民や地方のクリオーリョ（アメリカで生まれ育ったスペイン系住民）役人など、植民地周縁の多様な主体の支えによってネットワーク・システムが維持されていた可能性も考慮しなければならないだろう。

本共同研究では、こうした点を踏まえた上で、スペインおよびラテンアメリカ、アジア各地の文書館における実地調査を通して史料分析の研鑽を積み、文化人類学、歴史人類学、識字・リテラシー研究、史料論、エスノヒストリー、文書管理論、アーカイブズ学などの方法論に精通したエキスパートたちの知見を結集することにより、スペイン帝国の礎となつた文書ネットワーク・システムの成り立ちと植民地社会における展開について総合的な究明を試みる。それにより、ヨーロッパの一辺境にすぎなかつたスペインを世界規模の帝国の中核へと押し上げた統治メカニズムの原動力について、文書研究の視座から接近しようというのが本共同研究の大きなねらいである。

研究の方法

本共同研究が分析対象とするのは、かつてスペイン帝国の統治下にあった諸機関において生産・管理され、現在、スペインやラテンアメリカ、アジアの国公立文書館、地方文書館、先住民共同体アーカイブズ、教会文書館、私設文書庫等に保管されているさまざまな文書群の総体である。具体的には、聴訴院記録、政府通達・命令書簡、国庫・会計記録、市参事

会記録、貢納・納税者台帳、裁判・訴訟記録、行政査察記録、公証人台帳、異端審問記録、教区簿冊・教会保管文書、徴兵簿記録などがその対象に含まれる。本共同研究ではこれらの文書群に対し、以下に述べるような項目に焦点を当てながら比較研究を試みる。

モノとしての文書

本共同研究においてまず着目したいのは、モノとしての文書の在り方である。例えば、公証人帳簿や貢納台帳など、ある特定の文書の物理的形態ひとつをとってみても、それが現在みられるような形に落ち着くまでには、さまざまな要素が影響を及ぼしてきたはずである。具体的に公証人帳簿といえば、スペイン王室の定めた法規定に則して証書を作成するといった制度的要因、あるいは参考・閲覧の便宜を考えて目次・レイアウトを工夫するといった技術的要因、さらには公証人事務所という限られたスペースにあわせて帳簿を維持・保管するといった物理的要因などが考えられる（写真）。本共同研究では、こうしたモノとしての文書の在り方に関わる諸相に着目した上で、個々の文書がその物理的形態の背後に内包している歴史性や、同時代の文脈のなかでそれぞれが果たしていた役割について、歴史人類学、史料論、文書管理論などの方法を活用しながら遡行的に掘り起こしていく。さらに各地域や機関ごとに生産された文書をそれぞれ個別に分析するだけでなく、例えば、マドリードで発給された政府通達とラプラタに保管されている財務記録など、これまで直接の比較対象とされてこなかった文書群についても、超領域的な比較分析を積極的に試みる。それにより、帝国諸機関・地域の境界を越えてネットワーク化される文書管理体制の拡がりについて、モノとしての文書という視点からアプローチできるのではないかと考えている。

文書循環サイクルのダイナミズム

次に本共同研究が着目するのが、帝国域内における文書流通プロセスの問題である。具体的には、帝国統治下の諸機関において生産された文書がどのような行程を経て域内を流通していたのか、またその過程に誰が、どのように関わり、いかなる体制のもとに機能していたのか、それぞれの文書の生産・保管・参照・廃棄等の局面からなる持続的・循環的サイクルに着目しながら比較研究を行う。帝国域内における文書流通プロセスの実態をめぐっては、例えば、王室官僚の作成した行政文書の書式が植民地末端の先住民村落における集会議事録の雛形として流用されたり、先住民布教区の聖職者により作成された教区簿冊が中央政府の課税資料として行政目的に転用されるなど、地域や機関・部局の垣根を越えて交錯する流動的な循環サイクルの一端が、既存研究の中でも指摘されている（Rappaport and Cummins 2011）。こうした文書循環の流動性はいかなる背景のもとに成立し、また、広大な領土を結びつける上でどのような役割を果たしていたのか、帝国全体を視野に収めた上で、人間・文書・システムの関係

が織り成す錯綜したネットワークの実像について包括的に把握することを目指す。

システムの周縁と先住民

いっぽうで、帝国域内の文書ネットワークは、スペイン王室を頂点とする上意下達式の集権的統治機構に基づいて、すべてが機能していたわけではない。それどころか、例えば、植民地化以降に文書管理技術を身につけた先住民が司法機構を介して文書ネットワークへの参与を積極的に試みたり、中央行政の基盤となる徴税台帳の記載方式が末端の先住民納税者との折衝により確立されるなど、システムの周縁における個別的な実践が革新の呼び水となり、中央に波及効果をもたらすという逆転現象もしばしば生じていた。そのようなシステム周縁部が生み出す活力の実態について把握するために、本共同研究ではとりわけ、帝国世界において辺境の被支配者として位置づけられた先住民の役割に着目する。その上で、15世紀末にスペインから移植された文書管理体制が、帝国権力を下支えするインディアス（新大陸およびフィリピンのスペイン領植民地）の周縁社会においてどのように位置づけられ、機能していったのか（あるいは、していなかったのか）、その移植と変容のプロセスについてローカル・レベルでの実態を踏まえながら研究する。



ラパス歴史文書館の保管庫内部（ボリビア、2008年）。

以上のように本共同研究では、モノとしての文書の在り方から出発し、個々の文書の物理的形態に刻まれた歴史の痕跡を辿り直すことにより、その背後に秘められた実践と交渉の過程を再構成する。そして、こうした実践と交渉の織り成す錯綜した文書循環サイクルの連鎖的集積体の全体像を描き出すことにより、異種混交的な集団・文化・民族を包摂する広大な帝国の求心力の源を文書という視点から明らかにしていく。それにより、世界システム論や社会

経済史など、従来のマクロ・アプローチを中心とする帝国論では明らかにされてこなかったスペイン帝国の権力の由来について、植民地周縁の実相をも踏まえた微細な角度から迫ることができるのでないかと考えている。

【参考文献】

- Clanchy, M.T. 1993. *From Memory to Written Record: England 1066-1307*. Oxford: Blackwell Publishers.
三瀬利之 2009 「近代官僚制の文書主義—文書機能論からみたその合理性」 齋藤晃編『テキストと人文学 知の土台を解剖する』 pp. 264-283 人文書院。
Rama, Angel 1996. *The Lettered City*. Texas: Duke University Press.
Rappaport, Joanne and Tom Cummins 2011. *Beyond the Lettered City: Indigenous Literacies in the Andes*. Texas: Duke University Press.

よしう たかふみ

広島市立大学准教授。専門は文化人類学、文書研究。主な著書に『アンデス世界 交渉と創造の力学』（共著 世界思想社 2012年）、『テキストと人文学 知の土台を解剖する』（共著 人文書院 2009年）など。